

あなたは現在、どのライフステージ?

長い人生、常に身の回りは変化していきます。それはご自身や家族の健康も同様。一言に保険といっても、必要とされる保障も変わってきます。ライフステージに合わせた保険選びをしましょう。

スタート!

新入社員 ～未婚時

ケガ・病気の
保障に重点を。

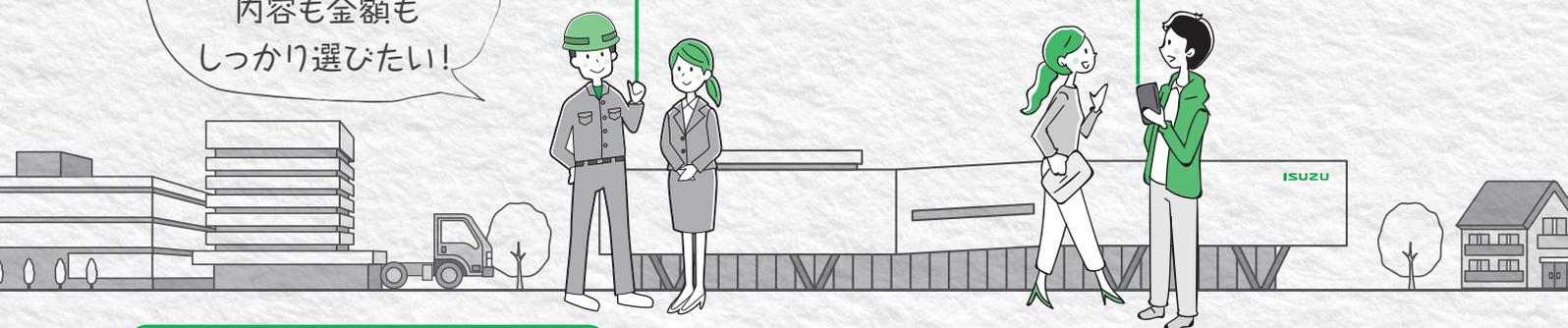
P5

結婚したら

パートナーの
保障もしっかりと。

P6

加入するだけでなく、
内容も金額も
しっかり選びたい!



新入社員～未婚時

独身なので、ケガや病気にはしっかり備えたいです!
でも、月々の負担は出来るだけ抑えて、その分貯金や積立投資、
友人等との交流や、自分への投資にもお金を使いたい!

Aさん(24歳^{※1} 男性)
未婚



▼ そんなあなたにオススメの保険はこちら! ▼

ご本人		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 200万円	700円 ^{※2} (約270円 ^{※3})
医療補償	M1セット2口	1,060円
ケガ補償	個人型1口 (天災なし) 個人賠償責任補償	420円
所得補償	Aタイプ1口	420円
合計保険料月額		2,600円 ^{※2} (約2,170円 ^{※3})

Point!

万一の時に諸々の費用で親に迷惑をかけないように、死亡保障も最低限準備しておく。

Point!

貯蓄がある程度まとまった形になるまでは、もしもの大きな病気への備えも大事。

Point!

アクティブ世代は特にケガ通院の補償があると助かる。第三者に迷惑をかけた時の補償は社会人として不可欠。

Point!

メンタルによる休職も一定期間補償されるため、安心。



「親の介護補償」「がん保障の早期準備」

※1 年齢は加入するコースごとに計算方法が異なります。※2 記載の保険料は2019年度概算保険料です。※3 2017年度配当実績と2019年度概算保険料を

各保障の詳細はP9～28をご参照ください

家族が増えたら

家族のためにも十分な保障を。

P7

大切な家族のために
 しっかりと準備を！
 家計のためにも
 見直してみようかな

子供の成長とともに

各種リスクへの備えと
 節約のバランスを。

P8

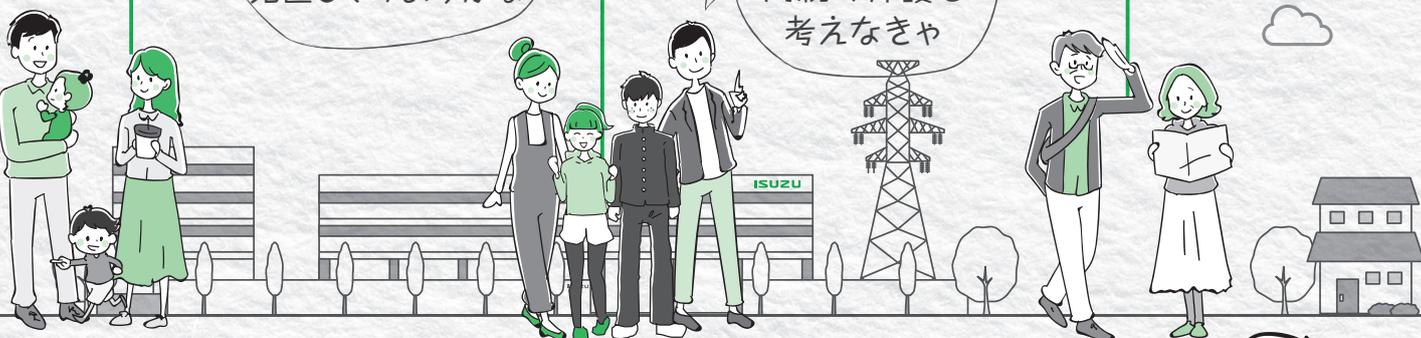
子供のケガや
 病気が心配・・・
 両親の介護も
 考えなきゃ

子供の独立後

老後に向けた
 保障のメリハリを。

P8

また夫婦二人に。
 万が一に備えて
 介護の保障も。



結婚したら

万一の時でも妻が困らないように、保障を手厚くしておきたいな。
 休日に二人で色々とかける時の補償も必要だ。
 でも将来に向けて貯蓄が進むよう、負担が増え過ぎないようにし
 ないとね。

Bさん(30歳^{*1} 男性)
 妻(28歳)

▼ そんなあなたにオススメの保険はこちら！ ▼

ご本人		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 1,000万円	3,500円 ^{*2} (約1,350円 ^{*3})
医療補償	M1セット2口	1,260円
ケガ補償	夫婦型1口 個人賠償責任補償 (天災なし) 受託物賠償責任補償	630円
所得補償	Aタイプ1口	540円
合計保険料月額		5,930円 ^{*2} (約3,780円 ^{*3})



Point!

万一の時でもその後妻がきちんと生活を立て直せるよう、まとまった保障を準備。

Point!

生活の変化によって、病気のリスクが上がることも。

Point!

ケガの補償と合わせて、「妻が自転車で事故を起こしてしまった」「レンタルのレジャー用品を壊してしまった」等の日常のトラブルを補償。

Point!

将来に向けて、もしもの時でも収入を減らさないために。



「妻の医療保障」「親の介護補償」「がん保障の早期準備」

もとに計算した実質負担額(概算・参考値)で、実際の負担額を示すものではありません。将来お支払いする配当金は変動し、0<ゼロ>となる可能性もあります。

各保障の詳細はP9~28をご参照ください

家族が増えたら

万一の時でも可愛い子供のために、**教育費も含めた十分な備え**をしたいな。子供部屋の確保のために、将来の住み替えも考えると、もしもの急な出費は極力抑えたいし、収入も十分安定させたいね。

Cさん(35歳^{*1} 男性)
妻(33歳) 子供(3歳と1歳)



▼ そんなあなたにオススメの保険はこちら! ▼

ご本人 		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 3,000万円	10,500円 ^{*2} (約4,048円 ^{*3})
医療補償	M1セット2口	1,260円
ケガ補償	家族型2口 (天災なし) 個人賠償責任補償 受託物賠償責任補償	1,660円
所得補償	Aタイプ2口	1,360円
合計保険料月額		14,780円^{*2} (約8,328円 ^{*3})



「親の介護補償」「がん保障」「携行品補償」

奥様 		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 200万円	700円 ^{*2} (約270円 ^{*3})
医療補償	M1セット2口	1,260円
合計保険料月額		1,960円^{*2} (約1,530円 ^{*3})

お子様 		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 100万円	70円 (約27円 ^{*3})
医療補償	M1セット1口	690円/690円
合計保険料月額		1,450円^{*2} (約1,407円 ^{*3})

家族全員の月払保険料合計

18,190円^{*2}
(約11,265円^{*3})

Point!

子供の学費を考えると必要保障額は大幅にアップ。会社や労働組合等の保障も十分チェック!

Point!

仕事と子育ての両立は大きな身体の負担に。年齢的にも、徐々に無理が効かなくなることも。

Point!

ケガの補償と合わせて、「妻が自転車で事故を起こしてしまった」「レンタルのレジャー用品を壊してしまった」等の日常のトラブルを補償。子供まで広く補償を拡大。

Point!

目標のマイホームのため、収入の安定化を。

Point!

子供が生まれたら、奥様の保障もますます大事に。

Point!

死亡保障は3歳^{*1}から加入出来ます。

Point!

医療補償は0歳^{*1}から加入出来ます。

※1 年齢は加入するコースごとに計算方法が異なります。※2 記載の保険料は2019年度概算保険料です。※3 2017年度配当実績と2019年度概算保険料を

各保障の詳細はP9~28をご参照ください

子供の成長とともに

子供も大きくなってきたし、それぞれの保障のバランスを見直せるかな。先々の老後資金も意識すると、住宅ローンの繰上返済も進めたいし、きちんと目的意識を持った、無駄の無い形にしたいね。

Dさん(45歳^{*1} 男性)
妻(43歳) 子供(13歳と11歳)



▼ そんなあなたにオススメの保険はこちら! ▼

ご本人		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 2,000万円	7,000円 ^{*2} (約2,699円 ^{*3})
医療補償	M1セット2口	1,400円
ケガ補償	家族型2口 (天災なし) 個人賠償責任補償 受託物賠償責任補償 携行品補償	1,850円
所得補償	Aタイプ2口	2,840円
合計保険料月額		13,090円^{*2} (約8,789円 ^{*3})



「親の介護補償」「がん保障」「子どものケガ補償上乘せ」

奥様・お子様におすすめの保障金額は「家族が増えたら」をご参照ください。
保険料の詳細はP10をご確認ください。

家族全員の月払保険料合計

16,170円^{*2}
(約11,353円^{*3})

Point!

子供にかかるお金は成長に伴い減っていくもの。家族構成に応じた適切な金額設定を。

Point!

年齢的に大きな病気になることも珍しくないため、備えは若い頃以上にしっかりと。

Point!

徐々に身の回りに物が増えてくるので、「第三者賠償」「レンタル品の補償」に加えて「自身の物の補償」も準備し、さらなる安心を。

Point!

もしもの時でも住宅ローンの返済が滞らないよう、収入減への備えもきちんと。

子供の独立後

子供が独立したから、死亡保障はぐっと抑えられるな。病気の保障は保険料が高くなるから、どの程度にするか悩ましいね。定年後・年金生活開始までの期間を乗り切れるよう、本気で貯蓄しないとね。

Eさん(57歳^{*1} 男性)
妻(55歳) 子供は独立済



▼ そんなあなたにオススメの保険はこちら! ▼

ご本人		
保障/補償コース	保障/補償内容	月払保険料
死亡保障	死亡保険金額 1,000万円	3,500円 ^{*2} (約1,350円 ^{*3})
医療補償	M1セット2口	1,960円
ケガ補償	夫婦型2口 (天災なし) 個人賠償責任補償 携行品補償	1,190円
所得補償	Aタイプ1口	2,890円
合計保険料月額		9,540円^{*2} (約7,390円 ^{*3})



「親の介護補償」「がん保障」

奥様・お子様におすすめの保障金額は「家族が増えたら」をご参照ください。
保険料の詳細はP10をご確認ください。

家族全員の月払保険料合計

12,200円^{*2}
(約9,620円^{*3})

Point!

奥様の老後資金を補うための保障額設定はしっかり夫婦で話し合ってください。

Point!

加齢に伴い負担額は増加。十分な貯蓄があるなら補償を見直すのも一手。

Point!

子供の独立後は基本のセットを夫婦型に縮小し、ほとんど必要がなくなった「レンタル品の補償」をやめるなど、ライフスタイルに合わせた最適化を。

Point!

将来の収入と現在の貯蓄のバランスを確認したうえで、加齢で負担が増える所得補償もスリムにすることも。

もとに計算した実質負担額(概算・参考値)で、実際の負担額を示すものではありません。将来お支払いする配当金は変動し、0<ゼロ>となる可能性もあります。

各保障の詳細はP9~28をご参照ください